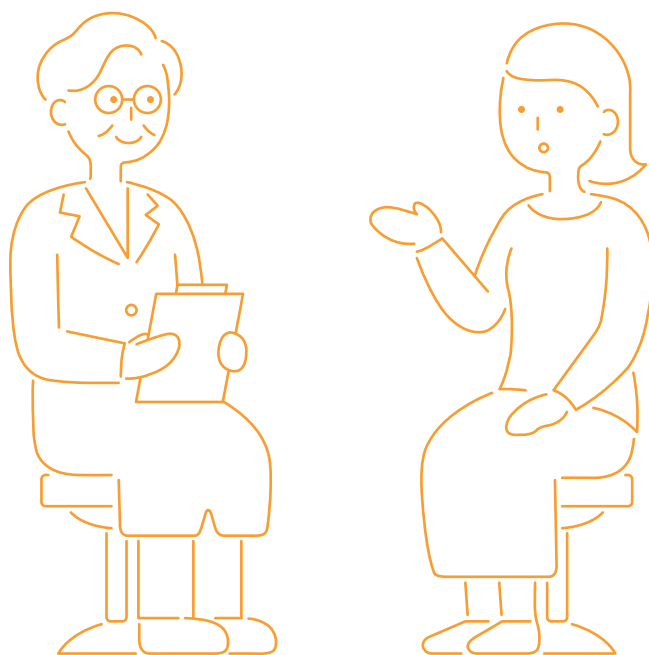


新型コロナウイルス感染症の いまとこれから



新型コロナウイルス感染症には 3つの感染経路があります

1

エアロゾル感染

空気中に漂うウイルスを含む粒子(エアロゾル)を吸入すること

2

飛沫感染

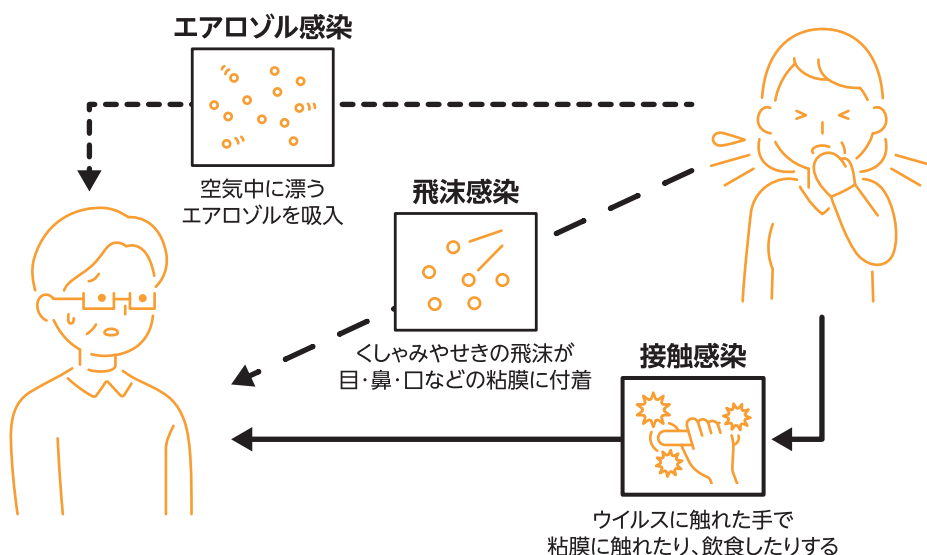
感染者のくしゃみや咳、会話によって飛んできた飛沫が目や鼻、口などに入ること

3

接触感染

ウイルスを含む飛沫を直接触る、もしくは、ウイルスが付着したものを触れた手で目や鼻、口などを触ったり、飲食をしたりすること

以上の3つの経路から体内にウイルスが入ることで感染するとされています¹。



新型コロナウイルス感染症の症状について

新型コロナウイルス感染症では、のどの痛みや鼻水、鼻づまりなどに加え、倦怠感や発熱、筋肉痛などの症状が起こることが多いとされています。

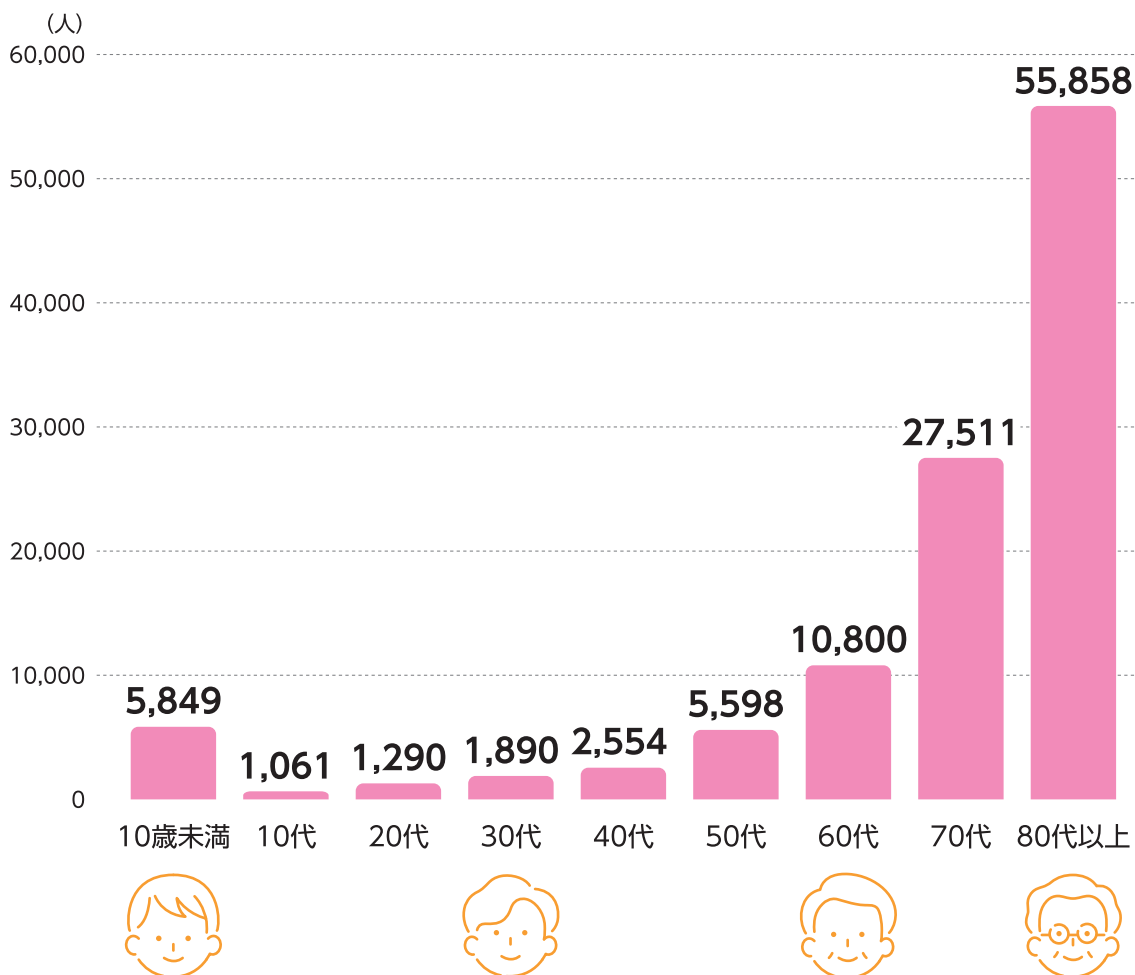
軽症の場合は、発症後1週間以内に症状が軽快することが多いですが、重症の場合、入院や酸素治療が必要となり、死に至ることもあります²。

1) 国立健康危機管理研究機構, 感染症情報提供サイト, 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染経路について, <https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/2019-ncov-e/11053-covid19-78.html> (2025年7月25日確認)

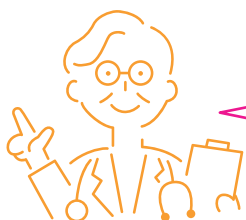
2) 診療の手引き編集委員会, 新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き 第10.1版, p.7, 2024より一部改変 <https://www.mhlw.go.jp/content/001248424.pdf> (2025年7月25日確認)

「高齢」は新型コロナウイルス感染症の最も重要な重症化リスク因子とされています³

●新型コロナウイルス感染症の年齢別の入院患者数(2024年)



対象・方法 2024年1月1日～2024年12月29日における各都道府県の新型コロナウイルス感染症による入院患者数を定点把握により集計した⁴。



感染症法上、新型コロナウイルスは季節性インフルエンザウイルスと同じ5類に分類されました。しかし、海外の研究では、65歳を超える高齢者において、新型コロナウイルス感染症による入院患者さんの30日以内の死亡率は、インフルエンザウイルスによる入院患者さんの1.78倍であったことが報告されています⁵。

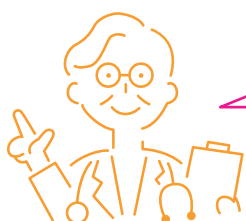
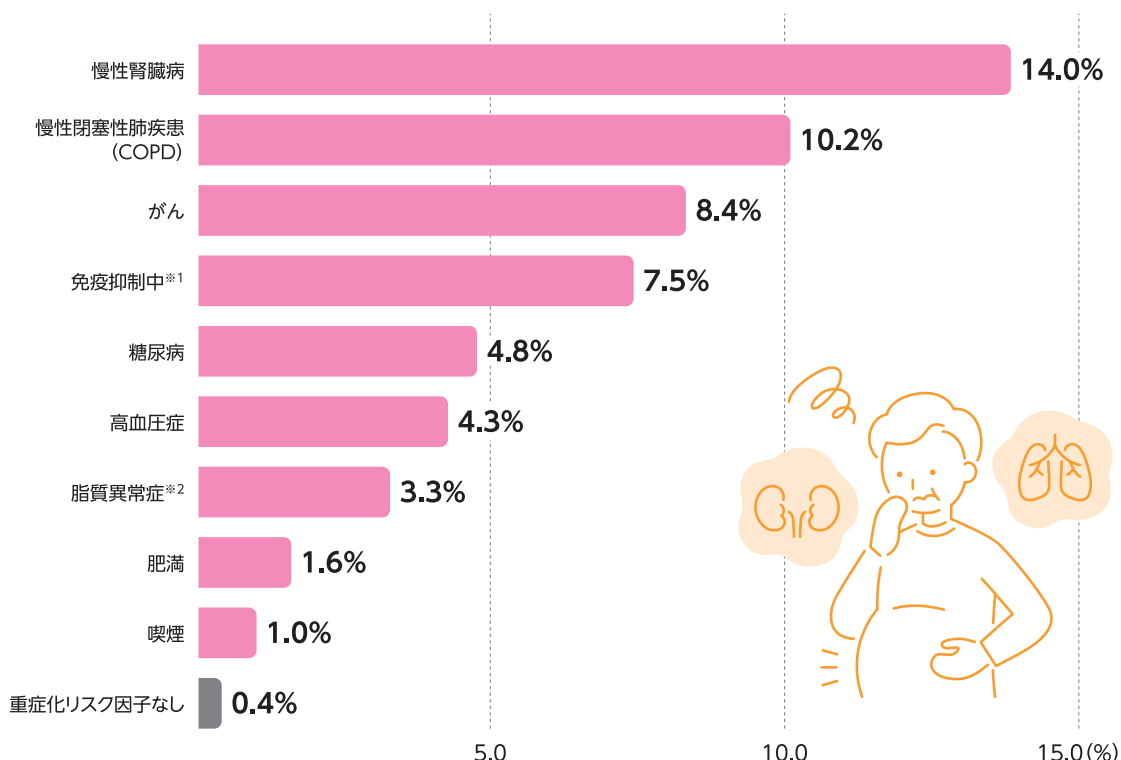
3)診療の手引き編集委員会, 新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き 第10.1版, p.9, 2024, <https://www.mhlw.go.jp/content/001248424.pdf>(2025年7月25日確認)

4)厚生労働省, 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の発生状況について(2025年1月9日公表)p.5,より作成 <https://www.mhlw.go.jp/content/001370323.pdf>(2025年7月25日確認)

5)Xie Y, et al. JAMA. 2023; 329(19): 1697-1699.

「基礎疾患」のある方は 新型コロナウイルス感染症による 重症化のリスクが高いとされています

●新型コロナウイルス感染症の基礎疾患(重症化リスク因子)別の死亡率



基礎疾患のある方は、新型コロナウイルス感染症の重症化リスクが高いだけでなく、感染により基礎疾患が悪化してしまうこともあります。ご自身やご家族の新型コロナウイルス感染症の重症化リスクをチェックリスト(5ページ)で確認してみましょう。

新型コロナウイルス感染症の 重症化リスクがないか確認してみましょう

以下のチェックリストにある項目は、新型コロナウイルス感染症の重症化リスク因子として報告されています⁷⁾。ご自身やご家族などで当てはまる項目がある方は新型コロナウイルス感染症の予防や感染時の対応についてあらかじめ主治医に相談しておきましょう。



チェックリストは、診断に代わるものではありません。チェックリストに当てはまる項目がない場合も、気になることがある方は医療機関を受診してください。

特徴	☐ 年齢が65歳以上である ☐ 肥満がある(BMIの数値が30以上*)
生活習慣	☐ たばこを吸っている/吸っていた ☐ 運動不足である
基礎疾患	現在もしくは過去、以下の疾患にかかったことがある ☐ 高血圧 ☐ 糖尿病 ☐ がん(血液腫瘍) ☐ 呼吸器疾患 ☐ 慢性の腎疾患(透析患者) ☐ 心血管疾患 ☐ 肝疾患 ☐ 精神神経疾患 ☐ 遺伝性疾患 ☐ 免疫不全
薬	☐ ステロイドなどの免疫を抑制する薬を服用している
妊娠	☐ 妊娠している、または産褥期

*: BMIの数値が25以上30未満の場合でも重症化に関連する場合がある。

BMI: 体格指数[計算] BMI=体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}

呼吸器疾患: 間質性肺疾患、肺塞栓症、肺高血圧、気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、結核、嚢胞性線維症、気管支肺異形成

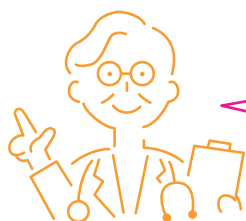
心血管疾患: 脳血管疾患、心不全、虚血性心疾患、心筋症

肝疾患: 肝硬変、非アルコール性脂肪肝、アルコール性肝障害、自己免疫性肝炎、B型肝炎、C型肝炎

精神神経疾患: 気分障害、統合失調症、認知症、薬物中毒

遺伝性疾患: ダウン症候群、鎌状赤血球症、 α 1-アンチトリプシン欠乏症、サラセミア

免疫不全: HIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染症、臓器移植・幹細胞移植、原発性免疫不全症候群



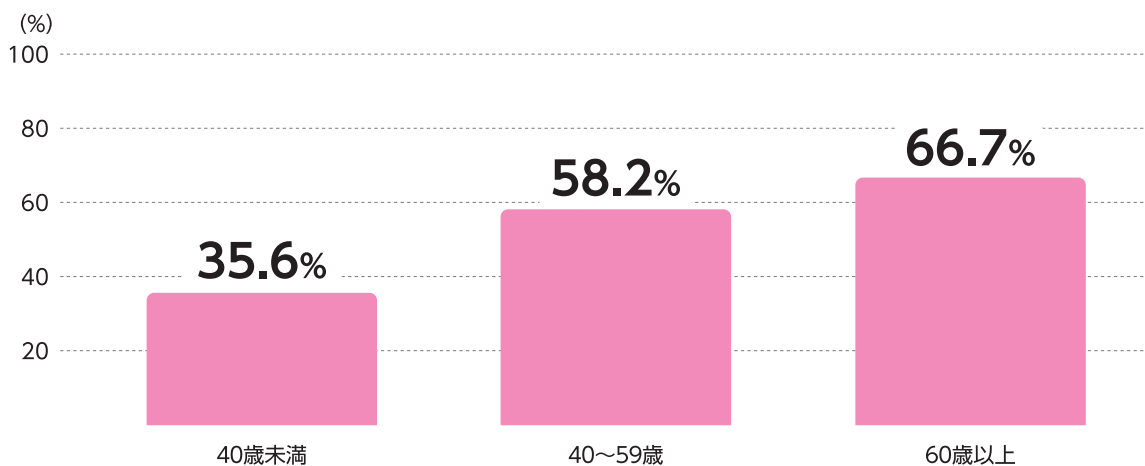
チェックリストに当てはまる項目がある方だけではなく、高齢者と暮らすご家族や介護をされる方は、基本的な感染予防対策に加え、新型コロナワクチンの接種をご検討ください(7ページ)。

7) 診療の手引き編集委員会, 新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き 第10.1版, p.9, 2024より一部改変
<https://www.mhlw.go.jp/content/001248424.pdf> (2025年7月25日確認)

新型コロナウイルス感染症では 罹患後症状(後遺症)が生じる可能性があります

新型コロナウイルス感染症に罹患後、感染性がなくなったにもかかわらず、症状が続いたり、新たな症状が現れたり、回復後に再び症状が生じたりすることがあります。これを「罹患後症状(後遺症)」と呼びます⁸。

●年代別の後遺症発症率



対象・方法 2020年8月～2021年3月に広島県の新型コロナウイルス感染症指定病院2施設を受診した患者を対象にアンケート調査をした(解析対象:127例)⁹。

リミテーション 本研究の患者選択は症状が残っている患者に偏った可能性がある。また、サンプルサイズが十分でない可能性がある。さらに、個々の症状の持続期間の評価や重症例の詳細な分析、各症状についての客観的な評価を行うことができなかった。

後遺症の例

- 疲労感、倦怠感
- 関節痛
- 筋肉痛
- 咳
- 喀痰
- 息切れ
- 胸痛
- 脱毛
- 記憶障害
- 集中力低下
- 頭痛
- 抑うつ
- 嗅覚障害
- 味覚障害
- 動悸
- 下痢
- 腹痛
- 睡眠障害
- 筋力低下

など



8)診療の手引き別冊編集委員会. 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント第3.1版, p.6, Annex・2.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001422904.pdf>(2025年7月25日確認)

9)Sugiyama A, et al. Sci Rep. 2022; 12(1): 6039.

ご自身と周りの方を守るために これからも感染予防対策を続けましょう

基本的な感染予防対策

場面に応じた適切な
マスクの着用



密集・密接・密閉の
回避



換気

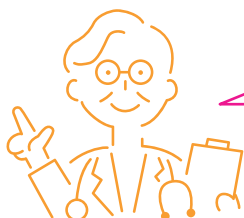


手洗い



新型コロナワクチンの接種

新型コロナワクチンは、新型コロナウイルス感染症の発症や重症化の予防に寄与しました。世界では、2020年12月8日～2021年12月8日の1年間で1,440万人の新型コロナウイルス感染症による死亡を防いだと推計されました¹⁰。



新型コロナワクチンは、医師が必要と認めた場合に、インフルエンザワクチンなど他のワクチンと同時接種が可能です¹¹。同時接種によって、それぞれのワクチンの有効性に影響が出ることや有害事象・副反応の頻度が高くなることはないと言われています¹²。

10) Watson OJ, et al. Lancet Infect Dis. 2022; 22(9): 1293-1302.

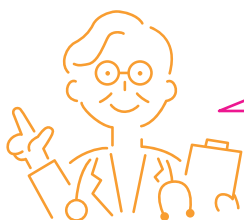
11) 厚生労働省、定期接種実施要項、(令和7年3月31日改正)p.11,
<https://www.mhlw.go.jp/content/001471610.pdf> (2025年7月25日確認)

12) 一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会ワクチンチーム、こどもとおとなのワクチンサイト、同時接種について、
<https://www.vaccine4all.jp/news-detail.php?page=3&nid=112> (2025年7月25日確認)

新型コロナワクチンは 定期接種で受けられます

- 2024年4月より、定期接種は、毎年秋冬に1回実施することとなりました。
- 65歳以上の方、または、60～64歳の一定の基礎疾患※を持った方が対象です。
- 定期接種対象者以外の方や定期接種のタイミング以外の時期でも、任意接種として接種を受けることができます。

※ 心臓や腎臓、呼吸器の機能の障害があり身の回りの生活を極度に制限される方や、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方。インフルエンザワクチンの定期接種の対象者と同じです。



詳しくは、お住まいの市町村(特別区を含む)や主治医にお問い合わせください。

新型コロナウイルス感染症について詳しく知りたい方はウェブサイトもご覧ください
モデルナ公式新型コロナウイルス感染症疾患啓発サイト

<https://disease.education/jp/covid>

